

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガクコリカクシン ミヤザキガクエン 学校法人 宮崎学園									
フリガナ大学院の名称	ミヤザキコクサイダクダクイン 宮崎国際大学大学院 (Graduate School of Miyazaki International College)									
大学本部の位置	宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地									
大学院の目的	宮崎国際大学大学院は教育基本法および学校教育法の定めるところにより、建学の精神「礼節・勤労」を基本理念とし、学部教育を基盤に、急速に拡大するグローバル化やSDGsなどへの対応として、異文化を理解し、高度な国際言語あるいは国際教養を涵養した学生を輩出することを目的とする。									
新設学部等の目的	国際教養研究科は、グローバル社会の多様性を尊重し、多様な人種が共存して豊かな国際社会を築くことに貢献できる人材育成、また、地域の産業・経済界のニーズに（グローバルな要請）にも応じられるよう、特に言語と国際文化・社会に関する教育を通して英語でのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけた高度な専門的職業人を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	国際教養研究科 Graduate School of International Liberal Arts	年	人	年次人	人		年月 第 年次	宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地		
	国際教養学専攻 International Liberal Arts	2	5	—	10	修士 (国際コミュニケーション学)	令和5年4月 第1年次			
	国際コミュニケーションコース Master of Arts in International Communication					修士(国際社会学)				
	国際社会研究コース Master of Arts in International Social Studies									
計		5	—	10						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	国際教養研究科 国際教養学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	国際教養研究科 国際教養学専攻 (修士課程)		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				10人 (10)	4人 (4)	3人 (3)	0人 (0)	17人 (17)	0人 (0)	4人 (4)
				計	10 (10)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)
	既設			—	—	—	—	—	—	—
(—)				(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
計			— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計			10 (10)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	— (—)	

【基礎となる学部等】
国際教養学部比較文化学科
教育学部児童教育学科
14条特例の実施

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		8 (8)	15 (15)	23 (23)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
	計		9 (9)	17 (17)	26 (26)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	0㎡	25,283.89㎡	0㎡	25,283.89㎡	宮崎学園短期大学 (必要面積5,200㎡)と共用				
	運 動 場 用 地	0㎡	27,028.00㎡	0㎡	27,028.00㎡					
	小 計	0㎡	52,311.89㎡	0㎡	52,311.89㎡					
	そ の 他	493.29㎡	16,838.64㎡	0㎡	17,331.93㎡					
	合 計	493.29㎡	69,150.53㎡	0㎡	69,643.82㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		宮崎学園短期大学 (必要面積4,600㎡)と共用			
		6,148.69㎡ (6,148.69㎡)	11,480.83㎡ (11,480.83㎡)	1,395.13㎡ (1,395.13㎡)	19,024.65㎡ (19,024.65㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	38 室	16 室	5 室	8 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際教養研究科国際教養学専攻		17 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数。電子ジャーナルは学術雑誌の内数		
	国際教養研究科 国際教養学専攻	186,368 [41,977] (182,059 [41,636])	8,204 [8,024] (8,204 [8,024])	8,021 [8,020] (8,021 [8,020])	9,448 (9,398)	1,511 (1,401)	7 (7)			
	計	186,368 [41,977] (182,059 [41,636])	8,204 [8,024] (8,204 [8,024])	8,021 [8,020] (8,021 [8,020])	9,448 (9,398)	1,511 (1,401)	7 (7)			
図 書 館		面積	閲覧席数	収 納 可 能 冊 数				大学全体		
		2,812.13㎡	312	110,000冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		2,138.00㎡	テニスコート 3面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		50千円	50千円					
		共同研究費等		0千円	0千円					
		図書購入費	1,000千円	200千円	200千円					
	設備購入費	1,000千円	429千円	429千円						
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		950千円	750千円	一千円	一千円	一千円	一千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入及び手数料収入を充当する。								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		宮崎国際大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際教養学部比較文化学科	4	100	—	400	学士(比較文化)	1.01	平成6年度	宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地	
	教育学部児童教育学科	4	50	—	200	学士(教育学)	0.98	平成26年度	同上	
	短 期 大 学 の 名 称		宮崎学園短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
保育科	2	210	—	420	短期大学士	0.92	昭和40年	宮崎県宮崎市清武町加納丙1415番地		
現代ビジネス科	2	50	—	100		0.72	平成25年	同上		
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際教養研究科国際教養学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤共通科目	国際コミュニケーション概論	1前	2			○				2	1			兼1	オムニバス
	外国語教育学概論	1前	2			○				2	1			兼2	オムニバス
	情報処理学特論	1前	2			○				2					オムニバス
	国際文化・芸術学概論	1前	2			○				2				兼1	オムニバス
	英語表現概論	1前	2			○				1	2			兼1	オムニバス
	小計（5科目）	—	10	0	0	—				5	3	1	0	0	兼3
基盤選択科目	交流セミナー特論（融合科目）	1~2		2		○				3					オムニバス
	国際経済学特論	2前		2		○					1				
	環境・生命科学特論	1後		2		○				2		1			オムニバス
	数理・データサイエンス特論	1後		2		○				2					オムニバス
	社会心理学特論	1後		2		○				2		1			オムニバス
	英米文学特論	1後		2		○				1					
	中国語特論	1後		2		○									兼1
日本教育史特論	2前		2		○				1						
小計（8科目）	—	0	16	0	—				8	1	2	0	0	兼2	
コース別特別科目	国際社会研究基礎演習 （国際環境生命学演習 / 情報マネジメント・セキュリティ演習 / 国際食料問題演習 / データサイエンス演習 / 英米文学演習 / 日本教育史学演習 / 地域文化学演習 / 社会心理学演習 / 数理統計分析学演習 / 国際経済学演習 / グローバル生態学演習）	1~2		6			○			9	1	1			
	国際社会研究（修士論文）	1~2		8			○			9	1				
	小計（2科目）	—	0	14	0	—				9	1	1	0	0	兼0
国際コミュニケーションコース	国際コミュニケーション学基礎演習 （情報処理学演習 / データサイエンス応用演習 / 英語教育演習 / 日本語人類学演習 / 応用言語学演習）	1~2		6			○			5					
	国際コミュニケーション学研究（修士論文）	1~2		8			○			5					
	小計（2科目）	—	0	14	0	—				5	0	0	0	0	兼0
合計（17科目）		—	10	44	0	—				10	4	3	0	0	兼4
学位又は称号	修士（国際社会学）および修士（国際コミュニケーション学）		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修士課程に2年以上在籍し、必修科目10単位、選択科目20単位（基盤選択科目から6単位、コース別特別科目から14単位）合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文審査或いは「特定の課題についての研究成果」審査及び最終試験に合格すること。 なお、コース別特別科目は、所属するコース（国際社会研究あるいは国際コミュニケーションのいずれか）の基礎演習（6単位）及び研究（8単位）を選択必修とする。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授業科目の概要 Course Overviews

(国際教養研究科国際教養学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際コミュニケーション概論 Overview of International Communication	<p>(概要)</p> <p>The language of each country, region, or group of people not only communicates ideas and feelings, but also the elements of their culture. A given culture's norms, values, beliefs, and assumptions are expressed through the various actions and behaviors of its peoples in addition to their language. Because these elements of culture are often assumed and inexplicit, there is opportunity for much conflict when different cultures clash. This first half of this course introduces learners to several paradigms through which cultural differences can be better understood. Through this framework students will then be guided to look at media literacy and conflict resolution/negotiation through the lens of culture. Course content will be presented in multiple formats and an active learning approach will be employed.</p> <p>(和訳) それぞれの国や地域、人々の集団の言語は、思想や感情を伝えるだけでなく、その文化の要素をも伝えている。ある文化の規範、価値観、信念、および前提は、言語に加えて、人々のさまざまな行動や振る舞いを通して表現される。文化のこのような要素は、多くの場合当たり前とみなされ明示されていないため、異文化間で問題が生じた場合、多くの対立を生じさせる。このコースの前半では、文化の違いをよりよく理解するためのいくつかのパラダイムを紹介する。このフレームワークを通じ、学生は文化というレンズを介してメディアリテラシーと紛争解決/交渉を検証できる観点を身につける。コースの内容は複数の形式で提供され、アクティブラーニングのアプローチが用いられる。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (13 Marc Waterfield / 4回)</p> <p>Drawing from works by Hofstede, Hall, and Trompenaars, this first module in the course aims to deepen learners' knowledge of how culture influences communication by looking at five dimensions of culture. Taking a collaborative approach, learners will reflect upon customs and social norms observed in high and low context cultures and how these qualities are expressed through collectivist and individualistic values. Pair and group work as well as discussions and lectures draw attention to the above in the aims of developing effective communication strategies that can be applied in cross-cultural communication settings. In order to appropriately situate these communicative strategies, attention will also be given to long-term and short-term cultural orientation and expression of emotions. Activities and discussions aim to deepen cultural awareness and reinforce language proficiency by recognizing the importance of context-specific knowledge and how to apply this valuable knowledge to improve communication in first and second or foreign language applications.</p> <p>(和訳) Hofstede、Hall、Trompenaarsなどの著作を参考に、文化の5つの側面から、文化がコミュニケーションにどのような影響を与えるかについて、学習者の知識を深めることを目的とした、本コースの第一のモジュールである。協調的なアプローチにより、ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化に見られる習慣や社会的規範を考察し、これらの性質が集団主義的価値観と個人主義的価値観によってどのように表現されるかを考察する。ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、講義では、異文化コミュニケーションの場で適用できる効果的なコミュニケーション戦略を開発することを目的として、上記に着眼する。これらのコミュニケーション戦略を適切に位置づけるため、長期的・短期的な文化的志向性や感情の表現にも注目する。アクティビティやディスカッションでは、第一言語、第二言語、または外国語でのコミュニケーションを向上させるため、文脈に応じた知識の重要性を認識し、この貴重な知識をどのように適用するかを考えることで、文化的認識を深め、言語能力を強化することを目的としている。</p>	オムニバス方式

(11 Cathrine-Mette Mork / 4回)

Continuing from the first module of the course, this second module investigates another five of Hofstede's dimensions of culture: cultures' attitudes towards time (polychronic vs monochronic), power distance, uncertainty avoidance, femininity vs masculinity, and indulgence vs restraint. Learners will be introduced to each theory with examples via content in the form of lectures, videos, and readings. Pair work and group work will be used in doing activities such as worksheets, case studies, problem-solving, games, role play, and small presentations. A deeper understanding of several ways to understand and compare different cultures will be attained by the end of this section. Moreover, those who complete this section of the course will also have broadened their vocabulary base to make it possible to engage in academic discourse about their cross-cultural interactions, which will ready them for the remaining half of the course.

(和訳) 第2モジュールでは、第1モジュールに引き続き、Hofstedeが提唱する文化の5つの側面、すなわち、時間に対する文化の考え方(多元的か単元的か)、力の距離、不確実性の回避、女性らしさや男性らしさ、耽溺と自制について学ぶ。受講者は講義、ビデオ、文献などを通じ、各理論の例に触れる。また、ワークシート、ケーススタディ、問題解決、ゲーム、ロールプレイ、小発表などのアクティビティでは、ペアワークやグループワークを行う。このセクションの終了時には、異文化を理解し、比較するためのいくつかの方法について、より深い理解が習得が可能となる。さらに、このセクションを修了した人は、異文化交流について学術的な議論を行えるよう、語彙基盤を広げ、コース後半に備えられる。

(21 William Hall / 4回)

The notion of literacy is changing in the highly visual, media saturated world of today. The ubiquity of digital devices has made it possible for media to be manipulated, endlessly reproduced, and effortlessly disseminated. However, visual media is never neutral, rather, it offers an interpretation of reality. As such, there exists a need to engage responsibly with visual culture and to acquire the skills to critically view and question media. Visual media literacy, the understanding of how images are created, and for what purpose, is of growing importance in today's visually orientated society. This module promotes a critical awareness of topics such as propaganda, image manipulation, fake news, and advertising in a cultural, technological, and historical framework as they relate to the increasingly globalized cultural landscape of today.

(和訳) リテラシーの概念は、高度にビジュアル化され、メディアが飽和した今日の世界で常に変化している。デジタル機器の普及により、メディアは操作され、無限に再現され、容易に拡散させることが可能となった。しかし、ビジュアルメディアは決して中立ではなく、むしろ現実の解釈を提供するものである。そのため、責任を持ってビジュアル・カルチャーに関わり、メディアを批判的に見て疑問を持つためのスキルを養わなければならない。画像がどのようにして、何の目的で作成されるのかを理解するビジュアルメディアリテラシーは、今日の視覚志向の社会では重要性を増している。このモジュールは、プロパガンダ、イメージ操作、フェイクニュース、広告などのトピックを、文化的、技術的、歴史的な枠組みの中で、ますますグローバル化する今日の文化的風景に関連して、批判的意識を持って捉えられるような観点を培う。

(15 Ellen Head / 3回)

The last module focuses on making connections between theory, practice and context. In the academic world, how do people select a particular theory and evaluate that theory? How are new theories generated and supported? Students will build on what they have learned in the earlier modules to work on a project such as a case study, or create a presentation or piece of writing in which they apply theory to a case study or relate theory to a particular context they are interested in. Depending on students' area of specialization or interest, there will be short input sessions focusing on some of the following: theories of interpersonal communication; rhetoric; narrative analysis; pragmatics; non-violent communication; human rights; grounded theory.

	<p>(和訳) 最終モジュールでは、理論と実践と文脈を結びつけることに焦点を当てる。アカデミックな世界では、人々はどのようにして特定の理論を選択し、その理論を評価するのか? また、新しい理論はどのように生み出され、支持されるのか? 学生は、これまでのモジュールで学んだことを基に、ケーススタディなどのプロジェクトに取り組み、理論をケーススタディに適用し、関心のある特定のコンテキストに理論を関連付ける発表やライティングを行う。学生の専門分野や興味に応じて、対人コミュニケーション理論、レトリック、ナラティブ分析、プラグマティクス、非暴力的コミュニケーション、人権、グラウンデッド・セオリーなどに焦点を当てた短いインプット・セッションを行う。</p>	
<p>外国語教育学概論 Overview of Foreign Language Pedagogy</p>	<p>(概要)</p> <p>将来英語教育に関わる者、現在英語教育に関わっている者、などを念頭に学部教育よりは高いレベルの指導法を学ぶ。さらに外国語教育学の原理・原論や実際の授業や学習に関わる領域の理解を深める。具体的な例では、語彙、文法、リスニング、ヒアリング、ライティングの高度な指導方法、考え方を解説し、また教材の選び方や学習評価方法、あるいは授業づくりの指導法をアクティブラーニング形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/ 全15回) (8 Anne Howard/ 3回)</p> <p>This part of the course will cover errors, error correction, and feedback. First, we will look at sources of error in second language learning from a historical perspective and explore the idea of interlanguage (Selinker, 1972). We will then explore theories of correction of spoken language errors in the classroom in terms of efficacy and other issues. Finally the class will go over the larger idea of classroom feedback and evaluation in general, in three parts: oral, written, and peer feedback. Through real examples and discussion students will have the opportunity to develop their own ideas about feedback in the classroom.</p> <p>(和訳) このパートでは、エラー、エラー修正、そしてフィードバックについて解説する。まず、第二言語学習におけるエラーの原因を歴史的な観点から見て、インターランゲージ (Selinker, 1972) の考え方を探る。次に、教室での話し言葉のエラーを修正するための理論を、効果やその他の問題の観点から探る。最後に、教室でのフィードバックや評価について、口頭、書面、相互フィードバックの3つのパートに分けて考察する。実際の例やディスカッションを通して、教室でのフィードバックについて自分の考えを深める機会を提供する。</p> <p>(13 Marc Waterfield / 3回)</p> <p>This course takes a social constructivist collaborative approach to help in-service and pre-service teachers make clear pedagogical conceptualizations through connecting teaching theories, methods, and practice. The goal of this course is to develop critical reflective skills through professional discourse. It draws from the literature and experience to deepen our understanding of what teachers and students actually do in the classroom. Taking an active learning approach through in-class discussions, assignments, and presentations skills will be developed to attain an appreciation for and the ability to recognize the differences between passive and active teaching approaches in the aims of facilitating more active learning conditions in the classroom.</p> <p>(和訳) このコースでは、社会構成主義者の協力的なアプローチを用い、現職の教師や見習い教師が、教育理論、教育方法、実践を結びつけることによって、教育的な概念を明確にすることをサポートする。このコースの目的は、専門的な議論を通して批判的な反省のスキルを身につけることである。このコースは、教師と生徒が教室で実際に行っていることについて理解を深めるために、文献や経験に基づいている。クラス内でのディスカッション、課題、プレゼンテーションを通じた能動的な学習アプローチにより、受動的な教授法と能動的な教授法の違いを理解し、認識する能力を身につけ、教室内でより能動的な学習状況を促進することを目的としている。</p>	<p>オムニバス方式</p>

		<p>(5 早瀬 博範 / 3回) 学習指導要領の薦める「英語を英語で教える」授業を効果的に実践するための様々な教授法について理論的な考察を行い、コミュニケーションでインテラクティブな授業の構築や展開方法、そのような授業を支えるための教材の開発能力、さらに、コミュニケーション重視の評価方法などについて具体的に講義を行う。とりわけ、これからの英語教育は、これまでの「スキル重視」の指導法から「内容重視」の指導法へのシフトが求められるが、そのための指導法についても専門的な視点で考察を行う。</p> <p>(20 荒木 瑞夫 / 3回) この回 (3回) では、学者者のニーズと動機づけについて、言語教師がどのように考えるべきかを概観する。ニーズ分析の実施方法と、その背後にあるEnglish for Specific Purposes (ESP)の考え方、そして近年研究が進む学習者の動機づけについての基本的概念のいくつかの理解を深めることを目的とする。今日加速度的にグローバル化する世界に対応するべく、教師は自分の教える内容や方法をデザインするだけでなく、変わりゆく学習者のニーズに対応していかななくてはならない。ニーズ分析がそのような教師に、教育を最適化するヒントを提供するだろう。また学習者の動機づけは、今日応用言語学で大きな注目と興味を集めるトピックの一つである。その基本的概念をいくつか外観し、言語教師がそこから何をくみ取れるかについて議論する。</p> <p>(19 藤井 久美子 / 3回) 中国語教育学と日本語教育学の視点をを用いて外国語教育学への理解を深める。日本語・中国語・英語、これら3言語の母語話者が他の言語を学ぶ際に有する有利な点と不利な点を理解し、より効果的な教授法を模索する。</p> <p>(英訳) To deepen our understanding of foreign language pedagogy using the perspectives of Chinese and Japanese pedagogy. To understand the advantages and disadvantages that native speakers of these three languages, Japanese, Chinese and English, have when learning other languages, and to seek more effective teaching methods.</p>	
情報処理学特論 Advanced Studies in Information Processing		<p>(概要) 現代社会あるいはグローバル社会で急速に進歩するIT化および情報ネットワークを理解し、グローバル社会や産業界で必要とされるIT関連知識を学ぶとともに問題解決のためのIT技術の考え方を学ぶ。データ通信技術からスマートグリッド、そしてライフラインとしてのインターネットやセキュリティ、マルチメディア等を包含した内容をアクティブラーニングで教示する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (2 Anderson Passos / 12回) In these 12 lessons I plan to cover the basic principles of networked system (6, 7), systems and issues related to IT (3, 4, 5), expose students to non-technical activities that will improve their management skills (2, 8, 9, 10, 11) and finally bring all those ideas together to discuss what the future reserves for us (12). The 12 lessons will explore basic concepts that anyone should be familiar nowadays, like network and cryptography, and also expose students to law-related problems created by companies (e.g. Sony vs EU) and individuals (hacking). The lessons also aim at improving the ability to think critically by looking at systems and solutions that fit a particular need without unnecessary burden for technology users and provide practical lessons that will deal with more real-world content (i.e. CMS and data science).</p>	オムニバス方式

	<p>(和訳) この12回のレッスンでは、ネットワークシステムの基本原則、ITに関連するシステムと問題を取り上げ、管理スキルを向上させる非技術的な活動を学生を体験する。最後にすべてのアイデアをまとめ、将来が私たちのために何を備えるかについて議論する。12回のレッスンでは、ネットワークや暗号化など、今日では誰もが知っているべき基本的な概念を探り、企業 (Sony対EUなど) や個人 (ハッキング) によって引き起こされる法律関連の問題について学ぶ。このコースは、テクノロジーユーザーに不必要な負担をかけずに特定のニーズに適合するシステムとソリューションを検討することで批判的に考える能力を向上させ、より現実的なコンテンツ (CMSやデータサイエンスなど) を扱う実践的なレッスンを提供することも目的としている。</p> <p>(4 保田 昌秀 / 3回) ICT技術を活用した教育 小学校GIGAスクールなどICT技術の教育現場での活用が求められている。そこで、次の観点からICT技術を活用した授業法について授業を行う。 1) 小学校で多用されている授業支援ソフト”ロイロノート・スクール”などを使った模擬授業の実習。 2) 効果的な授業方法などについてのグループワーク。 3) 遠隔授業のメリット・デメリット等についての調査研究。</p>	
<p>国際文化・芸術学概論 Overview of Studies in International Culture and Arts</p>	<p>(概要) グローバル社会においての文化の多様性を認める能力、それらの多様な文化が相互に影響しながら変化して行くことを理解し、異文化の関係性や、芸術あるいは芸術作品と社会との関わりなどを多角的に探究する能力を養うための講義である。例えば、芸術作品の分析を通してそこに反映される社会意識や世界観などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (7 Debra Occhi / 7回) Humans adapt to the earth 's physical environment and adapt their physical environments through culture: learned, shared, patterned, and changing behavior, exhibiting great diversity of the human potential. Artistic expression is one human universal that reflects this diversity and takes many forms, material and intellectual. While innovation within cultures is one means for transformation, exchange between cultures has traditionally created regional similarities and hybrid formations. With globalization, the pace of flow has increased, along with the potential for greater awareness of diversity. Analysis of cultural entities and linguistic shifts over space and time can increase understanding of culture as dynamic phenomena.</p> <p>(和訳) 人間による地球の物理的環境への適応は、文化を通じて行われる。文化とは、学習され、共有され、パターン化され、変化する行動のことであり、人間の潜在能力の偉大な多様性を示す。芸術表現は、この多様性を反映した人間の普遍性の一つであり、物質的、知的に様々な形態をとる。文化の中での革新が変革の一つの手段である一方で、文化間の交流は伝統的に地域的な類似性やハイブリッドの形成を産出してきた。グローバル化に伴い、その流れは加速しており、多様性をより強く意識することができるようになっている。空間と時間の中での文化的実体や言語の変化の分析から、ダイナミックな現象としての文化に対する理解を深めることが可能である。</p> <p>(21 William Hall / 5回) Art is both a reflection of and an influence on society. Epoch-making cultural and technological developments can be found elaborately documented in works of art. At the same time, art is often the vehicle driving social change, bringing meaning into people's lives and the drive to revolutionize the world we live in. Through the analysis of several historical and contemporary international works of visual art, this unit encourages a critical awareness of the complex relationship between human creativity and society.</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>(和訳) 芸術は社会の反映であり、また社会に影響を与えるものである。エポックメイキングな文化や技術の発展は、芸術作品の中に精巧に記録される。同時に、アートはしばしば社会変革の原動力となり、人々の生活に意味をもたらし、私たちの住む世界に革命を起こす原動力となる。このユニットでは、歴史上および現代の国際的な視覚芸術作品を分析することで、人間の創造性と社会との複雑な関係について批判的な認識を促す。</p> <p>(5 早瀬 博範 / 3回)</p> <p>今後のグローバル社会に生きるものとして、「異文化理解」「グローバルな視点」は不可欠な能力である。本講義では、そのような能力を育成するために、主として異文化間でのコミュニケーションに関する主要な事柄に関して専門的に学習する。併せて、その土台となる文化理論、コミュニケーション論、さらには認知心理学におけるスキーマ理論などについての専門的な知識を身につけるとともに、異文化とのコミュニケーション方法について様々なアプローチを考察する。</p>	
<p>英語表現概論 Overview of Expression in the English Language</p>	<p>(概要)</p> <p>グローバルな視点で、様々な場面に応じて、適切に英語で話すことや書くことができる能力を涵養し、併せて少人数教育システムを使って、論理的思考力や批判的思考力を養うための講義をする。そのため、創作英語力を身に付け、日本と欧米の感覚の相違による表現の違いを理解し、学生には英語表現を楽しむような方向付けを行う。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(20 荒木 瑞夫 / 8回)</p> <p>この回(8回分)では、アカデミック・ライティングに関する基本スキルと、それらの前提となっているルールや考え方について理解を深める。また、テキストデータとコーパスツールを用いて、アカデミックな言語使用の背後にあるパターンや特徴を見つけ出す方法についても学ぶ。この回を通じて、履修者はより自信をもって学位論文や、ジャーナルに投稿する論文の執筆に臨めるようになることを目的とする。具体的には、ジャンル、特徴語、テキストの結束性、IMRDとその変異形、書き手のスタンス、コーパス、文献の収集と批判的評価などのトピックを扱う。</p> <p>(英訳) In this 8-class part of the course, the students are to become familiar with some basic academic writing skills and the rules and the ways of thinking behind them. The students will also learn how to find patterns and characteristics in academic genres by utilizing textual data and corpus tools. The activities involved in this part of the course will ultimately make more confident in writing an academic thesis and a journal article. Among the topics to be included in this part are genre, keywords, coherence, IMRD and its variations, stance, corpus, and compilation and critical evaluation of academic literature.</p> <p>(12 Iain Stanley / 3回)</p> <p>The beauty of language is that we are all free to put words together however we please, whether in written or spoken form. Indeed, if you were to show a single image to ten different people and ask them to describe it, no-one would use identical words. However, there are techniques and systems that we can use more effectively to express our thoughts more clearly and with more imagination. In this course, students will learn how to become more creative with their written and spoken English and gain confidence in using language beyond the standard academic form. Specifically, students will develop their language skills using figurative devices such as metaphors and similes; enhance their descriptive skills using ambitious new vocabulary; and learn how different sentence lengths and structures can impact tempo and reaction from readers or listeners. Whether it's through fiction, nonfiction, storytelling, or critical thinking tasks, students will come away from this course with a greater understanding of creatively using English to communicate ideas more effectively and with more freedom and enjoyment.</p>	<p>オムニバス方式</p>

(和訳) 言葉の魅力は、文字でも話し言葉でも、誰もが自由に言葉を組み合わせることができることである。実際、10人に1つの画像を見せて説明してもらったとしても、誰も同じ言葉は使わない。しかし、自分の考えをより明確に、より想像力豊かに表現するためには、より効果的に使えるテクニックやシステムがある。このコースでは、英語を書いたり話したりする際に、よりクリエイティブになる方法を学び、標準的なアカデミック形式を超えた言語を使用する自信を体得する。具体的には、メタファーやシミュレーションなど比喩的な表現を用いた言語スキルの向上、意欲的な新しい語彙を用いた描写スキルの向上、文の長さや構造の違いがテンポや読者・リスナーの反応にどのように影響するかを学ぶ。フィクション、ノンフィクション、ストーリーテリング、クリティカルシンキングなど、このコースを修了した受講生は、アイデアをより効果的に、より自由に、より楽しく伝えるために英語を創造的に使うことについて、より深い理解を得ることを可能とする。

(5 早瀬 博範 / 2回)

英語で文章を書いたり、話したりする際には、論旨が明晰な構成、論理的で理論的な論展開、そして明快な表現が求められる。本講義では、日本語と英語の文化の差異から起こる論展開方法、表現方法などの相違について具体的な例を通して、理論的に認識を深めるとともに、実際にテーマに沿って英文を書いたり、スピーチやディベートをおこないながら、「英語らしい」表現力とはどのようなものであるか、そして、そのような能力を育成するための訓練方法についても考察を行う。

(1) The difference in writing and speaking between Japanese expressions and English ones.

(2) To know the difference, which comes from cultural differences, analyze several texts.

(3) To master how to write and speak English in a logical way through speeches or debating.

(11 Cathrine-Mette Mork / 2回)

In academic writing, being cautious in one's statements so as to distinguish between facts and claims is prudent. The wording used to reflect this caution is referred to as "hedging." Hedging is the use of linguistic devices to express hesitation or uncertainty. It is also used to show politeness and indirectness. The use of hedging language minimizes the possibility of opposition to any claims being made, conforms to the currently accepted style of academic writing and speech, and allows the author/speaker to politely acknowledge that there may be flaws in their claims. This module of the course will explore different hedging strategies so that learners can more carefully express themselves in both written and spoken language. Among some of the strategies we will look at are the use of introductory verbs, modal adverbs, certain lexical verbs, and "that" clauses. Skills learned will be particularly useful for academic writing and presentations.

(和訳) アカデミック・ライティングでは、事実と主張を区別するために、発言には慎重を期すことが重要である。この慎重さを表す表現を「ヘッジング」という。ヘッジングとは、ためらいや不確実性を表現するための言語的な工夫であり、礼儀正しさや間接性を示すためにも使用される。ヘッジング言語を使用することで、主張に対する反論の可能性を最小限に抑え、現在認められている学術論文やスピーチのスタイルに準拠し、著者や話し手が自分の主張の欠陥を丁重に認めることが可能となる。このモジュールでは、学習者が書き言葉と話し言葉の両方でより慎重に自分を表現できるよう、さまざまなヘッジング戦略を探究する。具体的には、導入動詞、修飾副詞、特定の語彙動詞、"that"節などの使用方法を学ぶ。学んだスキルは、特にアカデミック・ライティングやプレゼンテーションに役立つ。

基	<p>交流セミナー特論 (融合科目) Advanced Interactive Seminar (Fusion Subject)</p>	<p>(概要) 大学院生が順番に発表会を企画し実施するとともに、自ら行っている研究課題や興味を持っている課題の口演発表を行うことで、能動的で創造的な力を涵養する。また、定期的に国際分野で活躍する著名な外部講師を招聘して視野を広げ、学生に新たな興味を喚起させるとともに、アクティブラーニングの実践の場とする。専任教員が順番でコーディネーターを務め、大学院生による運営をサポートする。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (1 村上 昇 / 5回) 交流セミナーの5回分をコーディネートする。また、招聘講師による講演を企画する。主に題材として「地球の温暖化、後発開発途上国や開発途上国の生態系破壊、あるいは国際的食糧問題や資源問題など」の分野で講師(JICAなどから)を選び、調整する。講演に先駆けての学生による事前調査、講演に対しての批判的思考力などを評価し、質疑応答のやり方を指導する。特に理解系の視点から、テーマ、ストーリー、論理構成を基盤とし、そこにセオリー、テクニックといった要素を加えることなどを中心に指導する。</p> <p>(2 Anderson Passos / 5回) Coordinates five seminars. Will also plan talks by invited lecturers. Guest lecturers will mainly be in the field of "Society 5.0, IT, 5G, AI, and other technologies brought about by the IT revolution, as well as the social structure and future world in which these technologies will be applied". Prior to the lecture, students will conduct preliminary research, evaluate their critical thinking skills in response to the lecture, and be instructed on how to conduct a question and answer session. In particular, from a technical standpoint, students will be instructed on how to create a presentation slide.</p> <p>(和訳) 交流セミナーの5回分をコーディネートする。また、招聘講師による講演を企画する。主に題材として「Society 5.0、IT、5G、AIなどIT革命がもたらした技術、あるいはそれらを応用する社会的構造や将来的な世界など」の分野の講師を選び、調整する。講演に先駆けての学生による事前調査、講演に対しての批判的思考力などを評価し、質疑応答のやり方を指導する。特に技術的な面から、プレゼンテーションスライドの作成方法のノウハウを指導する。</p> <p>(5 早瀬 博範 / 5回) 交流セミナーの5回分をコーディネートする。また、招聘講師による講演を企画する。主に題材として「外国語教育の世界的現状、各国のCLIL教育の現状、外国語文学の歴史、日本の教育の課題、今後の教育改革など」の分野の講師を選び、調整する。講演に先駆けての学生による事前調査、講演に対しての批判的思考力などを評価し、質疑応答のやり方を指導する。特に、教育現場においてCLIL教育を重視したプレゼンテーションの在り方についての指導を行う。</p>	オムニバス方式
	<p>国際経済学特論 Advanced Studies in International Economics</p>	<p>The course is to provide students with the most important and updated knowledge to analyze the contemporary economic issues/policies in international trade and investment. Specifically, the course starts with examining the rationale of doing international trade and international business. Who gains and who does not gain from international trade among developed and developing countries. Then, the course provides situations for students to debate and analyze the interventions from the government, to do economic welfare analysis, and to find solutions for dissolving disputes.</p> <p>The course may cover some specific topics such as the effects of trade on economic growth, inequality, the flows of foreign direct investment, free trade negotiations, non-tariff barriers, trade disputes and trade wars, globalization, energy and environment issues related to globalization, taxing the multinational corporations, and the influences of ICT on the international economies.</p> <p>By the end of the course, students should be able to identify emerging issues in international economics, provide analyses and debate on the issues based on the learnt knowledge and economic analysis models.</p>	

盤

選

	<p>(和訳) 本コースは、国際貿易と投資における現代の経済問題/政策を分析する上で最も重要で最新の知識を学生に提供することを目的とする。具体的には、国際貿易や国際ビジネスを行うことの合理性の考察から始める。先進国と途上国間の国際貿易で、誰が得をして、誰が損をするのか。そして、政府の介入を議論・分析し、経済厚生分析を行い、紛争解決のための解決策を見出す場面を提供し議論する。</p> <p>本コースでは、貿易が経済成長に与える影響、不平等、海外直接投資の流れ、自由貿易交渉、非関税障壁、貿易紛争と貿易戦争、グローバリゼーション、グローバリゼーションに伴うエネルギー・環境問題、多国籍企業への課税、ICTの国際経済への影響など、いくつかの具体的なトピックを取り上げる。</p> <p>コース終了時には、国際経済における新たな課題を特定し、学んだ知識や経済分析モデルに基づいて課題に関する分析や議論を行うことが可能となる。</p>	
<p>環境・生命科学特論 Advanced Studies in Environmental and Life Sciences</p>	<p>(概要) 国際文化の多様性を理解する上では、どうしても環境問題や生命科学の進歩状況を理解しておく必要もある。本特論では、グローバルな環境と生態系の視点からの講義、国際的な食糧問題や栄養科学の視点からの講義、あるいは新型コロナ感染みたいな医学的知識や生命科学的知識が必要と思われる視点からの講義を受けて、環境と生命について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (17 田川 一希 / 4回) 進化の視点を基盤として、動物生態学・植物生態学を概観する。自然淘汰と遺伝的浮動による進化のメカニズムと、その分子遺伝学的背景を学ぶ。その後、動物間の捕食被食関係、動物と植物の相互作用 (植物-植食者、植物-送粉者、植物-種子散布者) について、古典的研究と最新の研究トピックを取り上げて議論する。</p> <p>(3 福田 亘博 / 4回) 世界の人口は2018年の76億人と推定され、2030年の85億人 (10%増)、2100年には109億人 (42%) に増加すると推測されている。これらの主な増加国は世界の最貧国によるもので、食料不足による飢餓と栄養不良等の問題を抱えている。近年、二酸化炭素等の排出増加に伴う地球規模の温暖化による気候変動は、人類の生存に係る食料生産に影響を及ぼすことが強く懸念されている。本講では、2015年国連で採択されたSustainable Development Goals (SDGs : 持続可能な開発目標) のうち、2. 飢餓をゼロに「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」などに焦点を当て、現状と課題を紹介し、解決策を議論する。</p> <p>(1 村上 昇 / 7回) 昔と現代社会における環境の変化がどのように人間の体に変化を及ぼしているか (例えばコンクリート化社会による、人間の腸内細菌叢の変化や、その変化に伴う生体機能の変化など)、あるいは、情報化社会によって、脳のどの部位が機能的に変化しているかなど、環境と生命の関係をマクロとミクロの両面から追求する。近年の医学系トピック (iPs細胞など) を紹介し、世界の医療情報なども比較し、グローバル社会と人の関係を理系の面から捉える。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>数理・データサイエンス特論 Advanced Studies in Mathematics and Data Science</p>	<p>(概要) 情報通信技術や測定技術の発展によるビッグデータの出現など、データが溢れる時代となった。国際文化の多様性を理解する上で、データから有益な情報を抽出する知識と技術は増々重視される。本特論では、データの要約・可視化とそれを可能にする数理に関する講義、身近なソフトであるエクセルを用いたデータ分析の実践、人間工学に基づく人体データの分析の演習を受けて、数理・データサイエンスについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (10 渡邊 耕二 / 5回) データの要約・可視化と確率分布について得られたデータの本质を捉え、そこから新たな知識を見出すデータサイエンスにおいて、統計学は不可欠である。統計データの要約・可視化とそれらの数理について講義する。 (1)データの種類(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)とデータの可視化(ヒストグラム、累積相対度数、ローレンツ曲線)について解説する。 (2)データの分布の特徴を表す指標(平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数、範囲、四分位範囲)と1変数データの要約・グラフ表現(モザイクグラフ、箱ひげ図)について解説する。 (3)2変数データの要約(共分散、相関係数)とグラフ表現(クロス集計表、散布図)について解説する。 (4)2変数データの要約として、単回帰分析について解説する。 (5)事象と確率、確率変数、確率分布(期待値と分散、正規分布、二項分布)について解説する。</p> <p>(4 保田 昌秀 / 5回) エクセルを使ったデータ分析と予測 条件が同じでも、得られる数値が個々の特性で変化する。これを変数と言ひ、分布(バラツキ)を持っている。テストの成績、実験データ、観測値などがこれにあたる。そこで、エクセルを使って変数を解析する方法について講義する。 (1)得られた変数から度数分布(ヒストグラム)・標準偏差・平均値を計算する方法を解説する。 (2)代表的な分布である正規分布について、平均値・標準偏差を変化させた時の分布のシミュレーションを行う。 (3)母集団の変量から無作為抽出で得た標本(サンプル)を使った検定方法について解説をする。 (4)条件を変化させて得られる変量について、条件と変量の二つの変量間の相関分析(回帰直線、相関係数)を行う。 (5)研究として行ってきた「光増感剤を使った酵母菌・大腸菌・がん細胞などの死滅実験(光線力学療法)の結果」を通じて、データ分析の応用例を紹介する。</p> <p>(18 御手洗正文 / 5回) 人間工学に基づく人体データの情報解析について IoT、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった新たな技術が進展する中で、これら先端技術を産業や実社会生活に取り入れ、Society 5.0の実現を目指すには、人間工学的な人体の生理・生物的情報データの利用が益々重要となる。そこで、本講義では「人間工学に基づく人体データの情報解析手法」として、研究実例を用いた講義と専用プログラムソフトを利用したデータ解析演習を行う。 (1)心拍データ(R-R)の計測解析・評価法について解説する。 (2)筋電データの計測解析・評価法について解説する。 (3)脳波データの計測解析・評価法について解説する。 (4)Bless Proならびに・NIOSHIを利用した人体負荷の計測解析・評価法について解説する。 (5)開発した人体姿勢解析プログラムソフトを利用した人体負荷解析法について紹介する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
---	--	----------------

科

<p>社会心理学特論 Advanced Studies in Social Psychology</p>	<p>(概要) 現代のグローバル社会における様々な課題に向き合っていくためには、個人の行動が他の人間や自分の所属する文化に影響を受けて作られていることを認知した上で、自分と他文化の他者を理解し、円滑なコミュニケーションを取ることが要求される。本科目の重点的目標は社会心理学的知識を得て受講者の対人関係力の向上を目指すことである。社会的感情、社会的認知、社会的行動、社会的影響、集団行動、コミュニケーション、紛争解決、社会心理学研究法等の学修が予定されている。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (9 小林 太 / 10回) 本講義では社会的感情（好意、愛情等）、社会的認知（自己意識、文化的自己意識、対人認知、原因帰属、態度等）、社会的行動（協力、利他的行為等）、社会的影響（同調、服従、依頼、説得等）、集団行動（集団同士の対立や協調等）など社会心理学の主なトピックが扱われる予定である。特に東アジア人と西洋人の心理的相違について講義も行う予定である。本講義の目標は主要な社会心理学的知識を学修し、受講者の社会的知性を向上させることである。</p> <p>(16 笠井 綾 / 3回) 本講義は、現代のグローバル社会におけるさまざまな分断や紛争の原因となっている、ステレオタイプ、偏見、差別、攻撃性や暴力などの事象を、受講者が社会心理学的観点をを用いて分析し、個人や集団の社会行動に対しての深い洞察力を養うことを目的とする。また、日常の対人関係や、国際的な紛争など、ミクロからマクロまでさまざまな事例を扱い、紛争や競争を乗り越え、協力しながら課題に取り組んでいくためには、どのように人と人、集団の間の関係を修復・構築していくことができるのか、社会心理学の概念を応用したワークショップや事例研究の手法を用いて考察する。</p> <p>(10 渡邊 耕二 / 2回) 本講義では、社会心理学が実証研究を重視すること、研究の対象となる社会的行動を測定する方法（概念的定義、操作的定義、質問紙の作成）、3つの研究デザイン（観察研究、相関研究、実験研究）とそれらの利点と限界、研究の信頼性と妥当性とその評価について講義をする。また、大規模教育調査PISAの公開データを事例として、データの可視化（ヒストグラム、箱ひげ図、散布図）と相関分析・回帰分析をエクセルを用いて実践する。これらを通じて、社会心理学の方法論を学修する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>英米文学特論 Advanced Studies in British and American Literature</p>	<p>本講義では、英米文学の主要作品を具体的に様々な視点から読み進めながら、文学作品の分析方法、解釈方法など、文学を理解・鑑賞するために必要な文学理論や専門的な知識や能力の育成を目的としている。さらに、作品が生まれる背景となっている英米の歴史的思想的な事柄に関する理解も同時に深める。併せて、作品のテーマなどに関するディスカッションやエッセイ・ライティングを実際に行うことで、英語での論理的な思考力、理論的な表現力も育成する。</p>	

目

	<p>中国語特論 Advanced Studies in Chinese Language</p>	<p>世界の言語の中で使用者数が最も多いのは英語であるが、母語話者数では世界一を誇る中国語の多様性と特徴について理解を深める。中国語は、中華人民共和国や香港、台湾、さらには世界各地にある中華街や、華僑・華人によって使用されている。文字・音声ともに多様性を有するが、多様性を有するがゆえに統合と分離という2つの方向性を持ちうる。中国語を持つ特徴を知ること、中国語圏の社会、文化にまで理解を広げ、中国語を通じた世界観を獲得する。</p> <p>(英訳) While English has the largest number of users among the world's languages, we will deepen our understanding of the diversity and characteristics of Chinese, which boasts the largest number of native speakers in the world. The Chinese language is used in the People's Republic of China, Hong Kong, Taiwan, Chinatowns around the world, and by overseas Chinese and Chinese people. It has diversity in both writing and speech, but because of this diversity, it can have two directions: integration and separation. By understanding the characteristics of the Chinese language, students will broaden their understanding of the society and culture of the Chinese-speaking world and acquire a worldview through the Chinese language.</p>	
	<p>日本教育史特論 Advanced Studies in the Educational History of Japan</p>	<p>日本の知的道徳的教育水準は高度に達成されている。それは一朝一夕に達成されたのではない。R.ドーア『江戸時代の教育』(Education in Tokugawa Japan)が明らかにしているように、「向上」の精神的基盤とともに、先人たちの歴史的的努力によって蓄積された。その場合、自生的であるとともに、諸外国との文化接触を通じて、学校の内外で種々の教育が展開していった。本授業では、講義を通じて、1)文化接触の基礎理に触れるとともに、18世紀以降の国際的環境の中で、とりわけ2)中国との関連、3)欧米との関連を通じて、わが国において、どのような教育理念、制度、実践が形成されたのかを取り上げ、4)わが国教育の史的基盤の特質を明らかにすることを目的とする。</p>	
<p>コ 国 際 社 会</p>	<p>国際社会研究基礎演習 Basic Seminar in International Social Studies</p>	<p>(概要) 国際社会研究に必要な知識と情報収集法、基礎的研究手技に関する理論と方法を学ぶ。多様な異文化を学ぶための国際政治、国際社会・文化・芸術・経済、あるいは国際的な様々な問題等の領域の情報収集や基礎文献等を精査・精読し、国際リベラルアーツ的知識の蓄積をもとに、プレゼンテーションの能力、高度なディベート能力、コンサルティング能力等の涵養に必要な基礎演習を行う。また、研究室セミナーに参加し、将来目指す専門技術の基盤となる理論や基本技術を学ぶ。 担当者と内容は以下の通りである。 1 村上 昇 (国際環境生命学演習) 2 Anderson Passos (情報マネジメント・セキュリティー演習) 3 福田 亘博 (国際食料問題演習) 4 保田 昌秀 (データサイエンス演習) 5 早瀬 博範 (英米文学演習) 6 河原 国男 (日本教育史学演習) 7 Debra Occhi (地域文化学演習) 9 小林 太 (社会心理学演習) 10 渡邊 耕二 (数理統計分析学演習) 14 Tien Manh Vu (国際経済学演習) 17 田川 一希 (グローバル生態学演習)</p>	

特別科目	ス	研究	<p>国際社会研究（修士論文） Research in International Social Studies (Master's Thesis)</p> <p>（概要） 担当教員の指導の下で研究課題に即した実験研究を行い、修士論文を作成する。（ ）は指導テーマの一部である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 村上 昇 （世界で利用されている農薬の中核機能への影響について） Anderson Passos （About computer society and risk management コンピューター社会とリスクマネジメントについて） 福田 亘博 （持続可能な食料生産に関する研究） 保田 昌秀 （インターネット翻訳ツールを活用した英文法の学習方法の開発について） 早瀬 博範 （英米文学と時代的背景の考察について） 河原 国男 （政治教育の課題と方法について） Debra Occhi （About contemporary Japanese society and culture 国際社会における日本文化の位置づけについて） 小林 太 （日本国内の日本企業に勤務する外国人労働者側の文化的適応課題について） 渡邊 耕二 （大規模教育調査のデータから有益な情報を抽出するデータ分析の方法開発について） Tien Manh Vu （Impacts of free trade on culture 自由貿易が文化に与える影響） 	
	別	国際	<p>国際コミュニケーション学基礎演習 Basic Seminar in International Communication</p> <p>（概要） 国際コミュニケーション学研究に必要な知識、情報収集法、基礎的研究手法に関する理論と方法を学ぶ。また、研究室セミナーに参加し、将来目指す専門技術の基盤となる理論や基本技術を学ぶ。 担当者とは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> Anderson Passos（情報処理学演習） 保田 昌秀（データサイエンス応用演習） 早瀬 博範（英語教育演習） Debra Occhi（日本語人類学演習） Anne Howard（応用言語学演習） 	
	科	ニ	ケ	<p>国際コミュニケーション学研究（修士論文） Research in International Communication (Master's Thesis)</p> <p>（概要） 担当教員の指導の下で研究課題に即した実験研究を行い、修士論文を作成する。（ ）は指導テーマの一部である。</p> <ol style="list-style-type: none"> Anderson Passos （About computer use in educational settings 教育現場でのコンピューター利用について） 保田 昌秀 （タブレット学習が子どもの学習行動に及ぼす影響） 早瀬 博範 （英語教育教材開発について） Debra Occhi （Linguistic anthropological research of Japan 日本の言語人類学的研究） Anne Howard （Development of practical methods for teaching English in English 英語で英語を教える実践方法の開発）
	目	シ		
		ョ		
		ン		
		コ		
		ース		

学校法人宮崎学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和 4年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

令和 5年度

入学 編入学 収容 変更の事由
定員 定員 定員

宮崎国際大学			
国際教養学部			
比較文化学科	100	-	400
教育学部			
児童教育学科	50	-	200
<hr/>			
計	150		600
宮崎学園短期大学			
保育科	210	-	420
現代ビジネス科	50	-	100
専攻科 福祉専攻	50	-	50
<hr/>			
計	310	-	570

宮崎国際大学				
国際教養学部				
比較文化学科	100	-	400	
教育学部				
児童教育学科	50	-	200	
<hr/>				
計	150		600	
<u>宮崎国際大学大学院</u>				大学院設置（認可申請）
国際教養研究科				
国際教養学専攻（M）	5		10	
<hr/>				
計	5		10	
宮崎学園短期大学				
保育科	210	-	420	
現代ビジネス科	50	-	100	
専攻科 福祉専攻	50	-	50	
<hr/>				
計	310	-	570	